

奈良県小学校理科教育研究会研究部 8月（第2回）研修報告

令和元年8月28日（金）於 田原本町立東小学校

理科における子どもの主体、対話的な 問題解決の指導法について研修をしました。

今回の研修は、「学級の子どもの生活、興味関心、発達をとらえて、子どもが心を動かし、問いを抱き、問題解決したいと強く思うように、導入にひと手間加えてみませんか？」というテーマで、杉澤先生にご指導いただきました。



ポイント①「問題解決のプロセスは？」

4年「とじこめた空気や水」の単元を例題に、3種類の理科教科書の問題解決のプロセスを比べて話し合っていました。

「導入」だけとっても、教師自身が考え、様々な意見を出すことが大切ですね！

空気があることを証明しておくため、導入で空気を閉じ込めてみる感覚は大切なのではないのでしょうか。

今は主に注射器を使って実験をします。子どもたちにとって楽しい活動とは…？

昔は低学年理科で、「空気をつかまえよう」の学習をしていました！

ポイント②「興味関心を大切に！」

5年「もののとけ方」で、子どもの生活や興味関心に基づく導入を考えてみました。

例えば・・・

- ・子どもが見たい！と思った時には、虫めがねや顕微鏡などを用意してあげる。
- ・もう1回やりたい！もっと入れたい！他の物も溶かしてみたい！と言った時には、ぜひやってあげましょう。

しかし、一方で・・・

「なかなか時間が無い…（泣）」これが多くの先生方の気持ちではないでしょうか。



食塩の結晶をつかって顕微鏡で観察してみました。
上手くできると、大人でもうれしいものです！



この子どもの心理と教師の意図のギャップをどう埋めていけるかだと思います。

教師が引っぱっていくばかりでなく、子どもの好奇心を大切にして、やりたいことをやらせてあげたいものです！

理科の授業が楽しくなると、もちろん子どもは理科が好きになります！

それだけではなく、理科が好きな先生のこと好きになります！

理科にはそんな魅力もあるのではないのでしょうか。

今回も「先生自身が楽しんで体験する」研修を行うことができました。とても忙しい毎日が続く中ですが、**共に学ぶ楽しさ**を体験できる奈小理研究部へぜひお越しください！

次回は9月27日（金）18時から、奈良女子大附属小学校です。
内容は、「動物の誕生」の予定です。